

神山敏夫「忘己利他」の王道ゆく、公益法人運営の小さな巨人

文 高橋誠

Text by Mac Takahashi

・ 学校法人慈恵大学広報推進室長
・ 医療・健康コミュニケーター

2014〜2017年、公認会計士協会東京会元会長の神山敏夫氏は、医療、相撲、ゴルフ界の公益財団法人への移行に従事しました。会計士として税務、監査やコンサルティングなどに幅広く携わる中、公益法人化は彼の高度な専門性が発揮される改革業務でした。

2014年、神山氏は故北の湖理事長体制の監事として日本相撲協会の公益財団法人化を成就させ、

「太古より五穀豊穡を祈る神事を起源とし、我が国固有の国技である相撲道の伝統と秩序を維持し継承発展させるために、――(略)――相撲文化の振興と国民の心身の向上に寄与する」との目的を掲げました。彼が監事に就任した前年には八百長疑惑による史上初の「本場所開催の中止」、野球賭博、力士暴行死、大麻所持など不祥事が続出、公益法人化は逆風下での快拳といえます。

2018年3月、神山氏は任期満了で6年に亘る監事を退任しました。

忘己利他、正義、王道の生き様、手腕

不可能と思えた公益法人化を達成した「忘己利他（己を忘れ、他を利する）」の精神、「正義を貫き、王道を歩む」の信条。派閥に属さず、圧力に屈せず、小柄ながら威風堂々、毅然として監事としてのミッションを貫きました。しかし任期末期には再び暴力事件に端を発した激震が続き、悪しき慣習が払拭されない体質は、公益法人の生みの親としては無念でありましょう。

医療界に新風

神山氏が顧問に就いた前立腺研究財団は、公益法人としてシンポジウムの定期開催を通じ、前立腺がんの早期検査、発見、治療の啓発に努め、国民の健康と福祉の向上に寄与しています。

国立がん研究センターがん対策情報センター予測（2017年）は、前立腺がんは、胃がん、肺がんに次いで男性の罹患率が高いと発表しています。早期の前

立腺がんは自覚症状がなく、ゆっくり進み、60歳ごろから顕著に発症しますから、早期治療によって進行を抑え、QOLを高めることが超高齢社会での大きな課題です。

神山氏の精神、信条が、前立腺がん撲滅の啓発に発揮される未来図を期待せずにはいられません。



Profile

学校法人慈恵大学広報推進室長。医療・健康コミュニケーター。東京生まれ横浜育ち。慶応義塾大学経済学部卒。ミスノ広報宣伝部、リクルート広報企画部、米国SPBC社New Design Conceptor（LA在住12年）、仙生露Executive PR Adviser、富士1ばんゴルフ副支配人/経営企画室長/広報室長を経て、2004年より現職。日米複数企業における広報・マーケティング経験から、難解な医療・健康をわかりやすくメディア・社会に伝えるべく、病院広報担当者間の勉強会「病院広報研究会」を立ち上げ、医療・健康コミュニケーション活動を研究中。趣味はゴルフ（Hdcp9）、ワイン（日本ソムリエ協会ワインエキスパート#58）。